



小児総合医療センター

〒183-8561

東京都府中市武蔵台二丁目8番29号

電話 042-300-5111 (代表)

病院の概要

東京都多摩地区に位置する、臨床・教育・研究の各分野で日本を代表する小児専門病院です。「すべての子ども達が笑顔になれるよう、最善の医療を行う」を使命に掲げ、専門性を生かした多職種によるチーム医療を実践しています。小児内科系・外科系、児童・思春期精神科、小児救急医療、新生児・小児の集中治療に加え、行政と連携した小児虐待対応、都内離島からの搬送受け入れ、災害・感染症対応など、多岐にわたる医療ケアを提供しています。小児病床数は561床と国内最大規模を誇り、豊富で多様な症例に触れることができます。臨床研修は、小児内科である総合診療科、児童・思春期精神科、各専門診療科で行われ、各専門医の取得や実践力を身につけることができます。また研究活動も盛んで、計画立案から統計解析、英文校正まで、充実した支援体制のもと学術的な成長も図ることができます。

■ 診療科目

総合診療科 在宅診療科 感染症科 免疫科 アレルギー科 心療内科 児童・思春期精神科 循環器科
内分泌・代謝科 血液・腫瘍科 緩和ケア科 腎臓・リウマチ膠原病科 神経内科 呼吸器科 消化器科
小児外科 呼吸器外科 心臓血管外科 泌尿器・腎移植科 整形外科 リハビリテーション科 形成外科
脳神経外科 眼科 耳鼻いんこう科 皮膚科 小児歯科 病理診断科 検査科 輸血科 放射線科 麻酔科
集中治療科 救命救急科 新生児科 臨床遺伝科 臨床試験科 遺伝子研究科

■ 基幹施設となる診療科 (括弧内は連携施設病院)

- ・小児科 (広尾/大塚/豊島/荏原/多摩北/立川相互病院/松戸市立総合医療センター/山梨大学連携病院)
- ・精神科 (多摩総合/松沢/多摩あおば病院/駒木野病院/鶴が丘ガーデンホスピタル)

■ 連携施設となる診療科 (括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載)

- ・外科 (墨東/多摩総合)
- ・小児科 (大塚/墨東)
- ・精神科 (豊島/荏原/墨東/多摩総合/松沢)
- ・整形外科 (多摩総合)
- ・麻酔科 (広尾/大塚/駒込/荏原/墨東/多摩総合/東部)
- ・耳鼻咽喉科 (多摩総合)
- ・泌尿器科 (駒込)
- ・病理科 (多摩総合)
- ・放射線科 (駒込)
- ・救急科 (墨東/多摩総合)
- ・総合診療 (駒込/多摩総合)



(院内修了式)



(成育、埼玉、千葉の子ども病院との合同勉強会風景)

臨床研修委員会委員長からのひとこと



感染症科部長
堀越 裕歩

当センターは、国際的にも有数の規模を誇る小児専門の高度医療機関です。各分野の小児専門医療をはじめ、一次から三次までの小児救急医療、周産期における新生児医療、児童・思春期の精神医療まで、幅広い診療を提供しています。よくみられる疾患から稀少疾患、軽症の急性期医療から重症の集中治療、慢性期や移行期医療、胎児・新生児から思春期・若年成人、身体とこころの医療などの多様な小児医療の経験が可能です。

初期研修修了後、小児科および児童・思春期精神科のシニアレジデント、小児内科系・外科系、新生児科のサブスペシャルティレジデントなどの臨床研修を行っています。特徴は、豊富な臨床症例に加え、小児のジェネラリストおよびスペシャリストの指導医のもとで質の高い教育を受けられる点にあります。

また当センターは国家戦略特区に指定されており、臨床試験や治験も活発に行われています。臨床研究支援センターが研究活動を全面的にサポートし、研修医でも国内外での学会発表や論文執筆が可能で、病院から研究研修費の支給、研究の表彰制度もあります。

個々に応じたワークライフバランスにも配慮し、夏季休暇や有給休暇の取得、男女問わず育児休業も可能です。意欲と向上心があれば、確実に力をつけられる研修環境が整っています。ぜひ私たちと共に、子どもたちの未来を支える医療を創っていきましょう。

シニアレジデントからのひとこと①



小児科コース
令和6年度修了
河上 哲朗

広く深く、ここでしかできない研修を

当院の強みは、こどもの笑顔を第一に考える、という同じ思いをもったたくさんのスタッフがいることだと思います。

臨床では主に急性疾患の外来・入院管理を担います。地域の中核病院として小児救急にも力を入れており、夜間・休日の救急当直で急性期の判断力や対応力が鍛えられます。病棟でも頻度の高い疾患から、慢性疾患や医療的ケア児の急性期管理などを経験できます。中には文献的に根拠の見つからない課題に直面することもあります。そんなとき、経験豊富で熱意ある指導医の皆様が手厚く支えてくれます。また、こどものケアに必須である、家族や周囲の環境調整のために、多職種で協力し合える心強い味方がいます。

単なる言葉で終わらない、チーム医療の実践、そして、こどもや家族の声にならない声を受け止めて行動に移す「アドボカシー」を経験から学べる、この上ない研修環境です。

また、研究を支援する部門もあり、臨床と研究の両面から小児科医としての成長を支えてくれます。研修修了後の進路も多様で、総合診療を続けることもできますし、各専門分野へ進むことも可能です。

「小児科医としての基礎をしっかり固めたい」「幅広い疾患に対応できる力をつけたい」と考えている方にとって、ここは最適な研修の場だと思います。子どもたちとその家族に安心を届ける医療を、ともに学び、実践していきませんか？ぜひ、一緒に働ける日を楽しみにしています。

シニアレジデントからのひとこと②



精神科コース
3年次
岡部 史郎

当科は都立小児総合医療センターの1フロアを担い、入院治療に関しては、関東一円から来院する重症患者に対するセンター機能を有すると同時に、東京都西部における地域医療の基幹病院としての機能も併せ持っています。レジデントは各病棟指導医のもと、主治医として診療を担当します。男女急性期病棟、思春期男子病棟、思春期女子病棟、思春期男女混合病棟、学童病棟、自閉症病棟のうち、複数の病棟をローテートします。また連携病院にて成人精神科の研修を行うことができます。外来もトリアージ制を設けて受け付けており、はじめは緊急度の低い症例から経験し、徐々に高い症例へと発展していくなど年次ごとにも経験する症例は幅広いものになります。

色々な経験を持ち合わせる先生が多く、レジデントは初期研修から小児科経験後や精神科経験後など年次も様々な先生方が集まっています。各々の経験や考えを持ちつつ共有することで、一層の研鑽がめぐるのも魅力的です。診療においては、医師、看護師、臨床心理士、ソーシャルワーカー、作業療法士から構成されるチーム医療を心がけると共に、保育士や院内学級とも連携を図っています。皆様の様々な経験を活かした診療ができる場です。児童思春期精神医療にご興味のある先生方、一緒に仲間になってくださることぜひお待ちしております。